

# 1分で話せ！ 伝える技術

伊藤羊一 著

話し方の技術ではなく  
伝える技術

内容

そもそも「伝える」ために考えておくべきこと  
うまいプレゼンより「動いてなんぼ」

前提

人は話を聞かないもの  
ロジックで情熱を伝えて1分で話を伝える

1、伝えるための基本事項

プレゼンの目的は  
「理解してもらうこと、ではなくて  
相手を動かすこと  
誰に、何を、どうしてもらうのか」

2、1分で伝える

左脳が理解するロジックを作る  
良い例と悪い例の比較から  
結論＋根拠を述べて  
左脳に働きかけるピラミッド・ストラクチャ  
最初に結論、そして3つぐらいの根拠を示す

特徴と感想三つ

ロジカル＝意味が繋がっている  
置き換えと例えを駆使

3、相手を迷子にさせないために

スッキリ、簡単でいこう

クライアントとコミュニケーションするためにインタラクティブ性をベースにしてイノベーションをクリエイティブしていく。

なんのこっちゃわからん。

相手を動かす目的のために

スライドもトークも

簡単な言葉を用いて不要なものを入れない。不要なものを削っていく。

4、1分でその気になってもらう

右脳を刺激してイメージを想像させよう

正しいことを言っているだけでは、人は動かない

論理だけではなく、具体的なイメージを持ってもらう

根拠の後には図や画像を入れたりして

はじめて感情が揺さぶられる

5、1分で動いてもらう

強烈な印象を残すためにも超一言、メタ認知を図る

6、「伝え方」のパターンを知っておこう

今までの組み立て方とモチベアップの工夫を

7、実践編

学んだことをQ&Aで実践する

本の特徴と感想

1、1分で読める、かなりサクサク読める。内容はとてもシンプル

2、基本に立ち返る

プレゼンのゴールは相手を動かすこと

3、情熱的設計

2、の情熱があれば

設計、発表の練習

責任を持つ←結果そうなる

お金や人を動かすことはきびしい、しょ。

あなたが伝えたいことは何ですか

あなたの情熱はどこにありますか  
そこに行き着きます。

(練習)

「書評動画」を発信します。

理由は3つです。

- 1、選書の参考になる  
読書の擬似体験ができる  
自分に合う本がわかる
- 2、ながら聴きができる  
作業をしながらすぐに情報が手に入る
- 3、意見交換ができる  
動画(youtube) 、HP・blog サイト  
意見が言えない方も  
動画コメント欄で交流できる  
(ツイッター)  
コメントも受ける(メール)  
(共用サイト  
ML)  
FB  
SNS

最後に

チャンネルを登録をお願いします！ ←youtube やってればですね

まとめ

- 1、新入社員
- 2、プレゼン力を高めたい。
- 3、伝えたい主張がある。

最後に印象が残ったところ、  
たまに間違った方がいるのですが  
特にプレゼンの場では  
笑いはいりません。

iPhoneX から河野清一が送信